男女共同参画広報紙
じょうそう

joso

No.11

● 目次 ●

○講演会にかえて …2 ページ
○エコバッグで啓発活動 …3 ページ
コロナ禍での生活から —市民の声—
▶医療従事者 佐賀 さおり氏
▶カフェ ユトリエ オーナー 斎藤 恭子氏
○(編集協力) 女性団体じょうそう事業委員会 …4 ページ
▶会長あいさつ
▶役員紹介
次期 常総市男女共同参画推進審議会 委員募集
女性相談のお知らせ

写真で巡る 男女共同参画の取組み

①平成26年度 ハーモニーフライト報告会
②平成27年度
DVと子どもの虐待相談員養成講座
受講者研修会
③平成28年度 女性団体じょうそう事業
委員会主催
「おいしい珈琲の楽しみ方」
④平成29年度 女性団体じょうそう事業
委員会主催「市長を囲む会」
⑤平成30年度 男性向け料理教室
⑥令和元年度 石下紫峰高等学校での
デートDV防止啓発講座
⑦令和2年度 豊田城パープルリボンライト
アップ

よりよい社会を目指して

常総市長 神達 岳志

市民の皆様におかれましては、日頃より男女共同参画行政について、深いご理解とご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

昨年より世界的な流行をみせている新型コロナウイルス感染症への対策に、新しい生活様式が求められ、皆様の生活にも様々な変化が起きていることと思います。

このような情勢の中、世界的に家庭内等の親しい間柄での暴力や、業績悪化による廃業を含めた解雇、雇い止め等が増加しています。また、非正規雇用に女性が多いことから、統計上、被害を受けるのは女性が多いことも判明しています。

一方で、在宅勤務や時差出勤といった労働環境の多様化、生活圏及び近接地での観光への注目、家族で過ごす時間の増加等、これまでなかなか進まなかった取組みが見直されている状況でもあります。

常総市では、性別、年齢、国籍等に関わらず、市民の皆様が安心して暮らすことができる環境の提供に努めるとともに、以前の生活に戻るのではなく、さらに生きやすい社会となるよう推進してまいりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

過去の紙面は、市HPでご覧いただけます。

講演会にかえて

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した令和二年度常総市男女共同参画講演会でご講演予定であった講師 光畑氏のお話をご紹介いたします。

昨年、茨城県では、LGBT（性的マイノリティ）支援策によって、パートナーシップ宣誓制度が県としては全国で初めて取り入れられました。男女共同参画は、このようなさまざまな少数派の人たちも含めた取組みとして、「ダイバーシティ」と言う言葉で、より広くとらえられるようになりました。私たちの活動も、その一環として紹介されることがあります。

私は、モーハウスという会社で、赤ちゃんがいるお母さんが社会とつながれるよう、女性がどこででも授乳ができる服を作っています。スタッフたちは「子連れ出勤」と言う働き方をしています。

茨城に引っ越してきたときに、東京でなくてもできる働き方をいろいろ試してみました。そんな中の一つが、今の授乳服の仕事、モーハウスです。モーハウスを続けてきた理由は、もちろん「やりがい」です。授乳服を着てくれた多くの方に、子育てがこんなに楽になるなんて、と感謝されると嬉しくなります。

しかし、実はもう一つ「働きやすさ」という理由もあります。会社を創った当初から、私はまだ小さい子どもを連れて仕事をしていましたし、それが自然の流れだったので、スタッフの中にも同じように子連れで働く人が出てきました。子どもも、職場に慣れると、意外とおとなしくしているものです。

こんな働き方があることを、多くの人に伝えたいと思うようになり、それ以来私たちは、東京や、つくばにあるショップで、この働き方を続けています。

モーハウスで授乳服を作るという活動は、そもそも「授乳する場所がないと愚痴を言うよりは、自分が変わった方が早い」と思って始めたことです。粉ミルクは、一か月に一万円ほどかかります。母乳で育てればその分のお金で授乳服を買える、と思いました。

今も、家庭では女性が子育てと家事をするべき、という思い込みが多くの人にありますし、女性が様々な差別を受けることもあります。腹立たしい思いがありますが、一方で今は、女性や少数派の人々にとってチャンスではないかと思います。LGBTの活動が注目を浴びていることも大きな変化です。子どもがいる女性は、今の社会の中では少数派。その少数派が自分たちで環境を変えられるという可能性を、私は自分の活動から発信したいと思っています。

皆さんも、何かしら困りごとを持っていらっしゃるのではないでしょうか。困っている人が少なかったり、発言力が小さかったりすると、なかなかその問題に社会は適応してくれません。でも自分や周囲、その問題に気づいた人が少しずつでも、気づいたことを発信をしたり、工夫をしていくことから変化は始まります。ダイバーシティ、男女共同参画社会を作っていくには、私たち自身が変わることがいちばんの早道なのかもしれません。

光畑 由佳 氏

モーハウス代表取締役 NPO 法人子連れスタイル推進協会代表理事
倉敷市出身。自身の電車内での授乳体験をきっかけに、産後の新しいライフスタイルを提案する「モーハウス」の活動を開始し、社会と子育てをつなぐ環境づくりのため、授乳服の存在を広めてきた。
自社で実践する「子連れ出勤」は古くて新しいワークスタイルとして国内外から注目され、女性のチャレンジ賞など受賞歴多数。筑波大学大学院非常勤講師。東京大学大学院学際情報学府客員研究員。三児の母。

エコバッグで啓発活動

女性団体じょうそう事業委員会
副会長 **海老原　和子 氏**

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでの事業計画が中止となり、また今後の事業再開も未定のままです。

この様な状況の中ですが、令和二年六月にはパワハラ防止法が施行され、私たちの活動が一層重要となっています。

そこで今後の男女共同参画推進の啓発活動に活用したいと考え、女性団体じょうそう事業委員会の名前入りエコバッグを作成しました。今後実施する事業に役立てて行く予定です。

男女共同参画
女性団体じょうそう
常総市女性団体じょうそう事業委員会

コロナ禍での生活から ― 市民の声 ―

医療従事者 **佐賀　さおり 氏**

立春を迎えたとはいえ、寒さはまだ去りやらぬ中、新型コロナウイルス感染症に翻弄される日々が続き、感染予防対策と体調管理には皆さん気を遣われているのではないでしょうか。毎日毎日新型コロナ感染者の情報を耳にし、誰もが不安を抱えながら生活をしていることと思います。

学習やスポーツへの影響は大きく、子どもたちも様々な行事の自粛を余儀なくされています。我が家でも娘の最後の大会が中止となりました。大学入試に切り替えるよう指導する先生もいるでしょうが、娘の先生は、子どもたちの思いに寄り添い、記録として残らないものの試合ができる環境を設けてくれました。試合前から涙する子どもたち、最後の最後まで走りきる姿を見られたことに、心から感謝しています。

新しい生活様式へと変化しつつある今、親として大人として未来ある子どもたちの思いに寄り添い支えてあげたいと思います。

この経験がいつか励みになり、そして感謝する日が来ることを信じて。がんばっぺ！

カフェ ユトリエ オーナー
斎藤　恭子 氏

自宅横にカフェを開いて、早いもので十年が過ぎました。こんな場所に作っても誰も来てくれないよと言われ、その言葉通り、最初はほとんど毎日閑古鳥が鳴いている状況でした。それでもやっと、少しずつ固定客が増え、続けていく自信と、改装も視野に入れた目標が出てきた矢先。まさかコロナがこんなに影響するとは思ってもみませんでした。

このままでは潰れてしまう！本気で何とかしなくては！何か手立てはないものか…と考えていた頃、一人のお客様から「ユトリエさんではテイクアウト事業はやっていないのですか？」との問い合わせがありました。今更虫が良すぎるのでは、とためらいながら商工会に電話をすると、すぐに快い返事をもらい、会員登録の運びとなりました。この時は、心底ありがたいと感じるとともに、不安もありましたが、予想以上の効果に、皆さんのこの事業に対する関心の高さを実感しました。

ただ効果があった分、想像以上に忙しく、日中くたくたになり、夜に仕込みをして、泥のように眠る繰り返しでした。反省する部分も多く、今までの甘さを強く感じるとともに、準備、手配、回し方、時間配分などの勉強ができたのだと感じました。

テイクアウト事業が終わった今、続けて来てくれるお客様、クチコミをしてくれた方々、たくさんの皆さんのおかげで、今なお営業が成り立っていることに本当に感謝の毎日です。窮地にあっても学ぶことがあり、助け合っていけるのだと思えたことなど、お金では得られないものを、得ることができたと思っています。

（編集協力）女性団体じょうそう事業委員会

会長あいさつ

コロナ禍に生きる

女性団体じょうそう事業委員会
会長 **秋場　ふぢ 氏**

思いがけないコロナウイルスに世界中が脅かされている今日、皆さま、いかがお過ごしですか。何が起きても不思議ではない天災が起こる世の中…と思っていましたら、今回このコロナ騒動、どう理解してよいか見当もつきません。いつ収束するのか計り知れない中でも、私たちは生きていかなければなりません。コロナ予防の所作を守り、自分の行動に責任をもって、以前の生活と少しでも同じようにしていきたいものです。

女性団体じょうそう事業委員会も、総会を書面決議にて開催し、皆さまに御了承をいただきました。皆で顔を合わせ、いろいろ語り合う機会をもてなかったことが本当に残念でした。その代わりにアンケートを実施し、委員の皆さまからいただいた御意見を今後の事業に役立てていきたいと考えております。あわせて、今後の啓発活動に活用するエコバッグを作成しました。来年度はアンケートの内容を踏まえ、エコバッグを活用し、男女共同参画啓発活動が再開できることを希望します。それまでお互い頑張りましょう。早く皆さまにお会いしたいです。

女性団体じょうそう事業委員会は、常総市で活躍する女性団体の代表者や個人の方で構成される団体です。

本委員会の構成メンバーが、それぞれの団体に男女共同参画に関わる考え方等を持ち帰り、各団体での活動に生かしてもらう啓発の他、市民向けに男女共同参画に関わるセミナー等の活動を行っています。

常総市で実施している男女共同参画推進セミナーや講演会でも、託児や集客にご協力をいただいており、役員の方からは、本紙面にも寄稿や編集協力として携わっていただいています。

役員紹介（写真右から）

監　事　坂巻　節子 氏
会　計　飯泉とみ子 氏
会　長　秋場　ふぢ 氏
副会長　海老原和子 氏
副会長　原田　好子 氏
監　事　寺田由紀子 氏

女性相談のお知らせ

無　料
☎相談可

常総市では、女性の様々な悩みを臨床心理カウンセラーにご相談いただける機会をご用意しています。秘密は厳守いたしますので、一人で悩まず、安心してご相談ください。

相 談 日：原則第３火曜日
相談時間：10時～/11時～/13時～/14時～

※相談事業についてのアンケートを２月28 日まで実施しています。HP または右のQR コードからご回答ください。

お問合せ・お申込み先：発行元に同じ

次期 常総市男女共同参画推進審議会 委員募集

常総市の男女共同参画に関わる計画の策定や、施策を進めるにあたりご意見を伺う「常総市男女共同参画推進審議会」では、市民委員を公募しています。

任期は、令和３年７月１日より２年間です。

募集の詳細は、公募開始時に、市お知らせ版（４月号を予定）及び市 HP にてお知らせいたしますので、ご興味のある方は、是非お申込みください。

※募集人数：３名程度
※過去の議事録等を市 HP にて公開しています。

発行日 令和3年2月10日（水）

編集・発行 常総市 市民生活部人権推進課
〒303-8501 常総市水海道諏訪町3222番地3
☎ 0297-23-2111（代表）

編集協力 女性団体じょうそう事業委員会